

柞乃杜

秩父神社社報
柞乃杜(ははそのもり)

第 47 号

平成25年 7月20日
(川瀬祭)



神宮式年遷宮奉祝記念

たふとたふ

みな

おんあかぬ

御遷宮

芭蕉

神宮式年遷宮——「常若」の証しの大祭

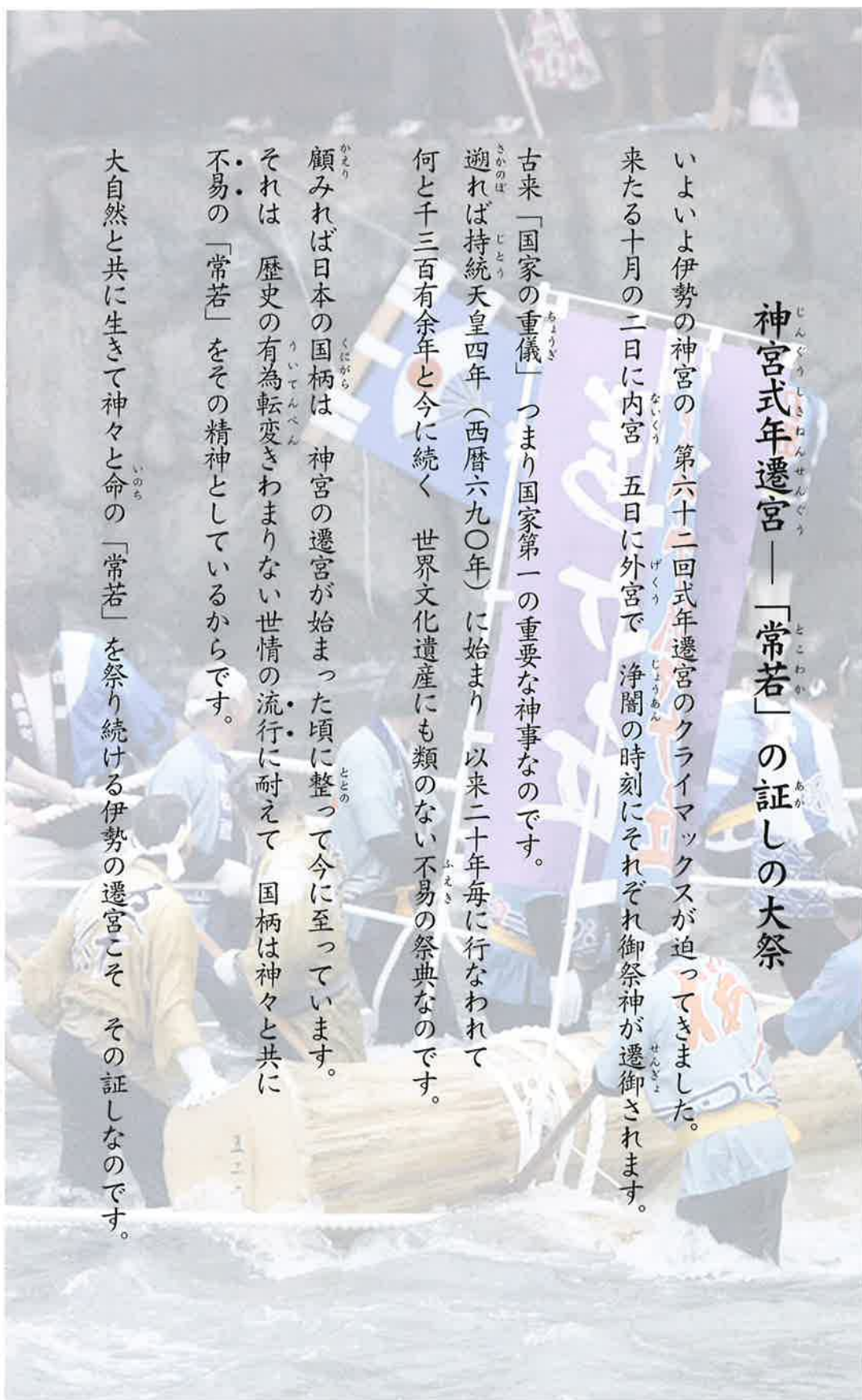
いよいよ伊勢の神宮の第六十二回式年遷宮のクライマックスが迫ってきました。来たる十月の二日に内宮 五日に外宮で 浄闇の時刻にそれぞれ御祭神が遷御されます。

古来「国家の重儀」つまり国家第一の重要な神事なのです。

逆れば持統天皇四年（西暦六九〇年）に始まり 以来二十年毎に行なわれて 何と千三百有余年と今に続く 世界文化遺産にも類のない不易の祭典なのです。

顧みれば日本の国柄は 神宮の遷宮が始まった頃に整って今に至っています。それは 歴史の有為転変きわまりない世情の流行に耐えて 国柄は神々と共に 不易の「常若」をその精神としているからです。

大自然と共に生きて神々と命の「常若」を祭り続ける伊勢の遷宮こそ その証しなのです。



解説 秩父神社 (46)

浅見 武史

◆ 昭和の時代当社を護つた先輩職員を偲ぶ その(3)

蘭田武男宮司



明治四十年十月七日蘭田稲太郎宮司の長男として出生。昭和六年國學院大學卒業、同年元

官幣大社日枝神社奉職、十三年元官幣中社金鑽神社禰宜、二十年七月元別格官幣社唐澤山神社宮司。同年十二月二十八日当社宮司となり更に平成元年四月よりは名譽宮司として通年五十二年間神明奉仕。平成九年二月五日歸幽。享年九十。

木野鉉三郎禰宜



明治四十年五月二十八日東京神田旭町にて出生。昭和七年國學院大學卒業、同年元官幣

大社日枝神社奉職、十年四月稲太郎宮

司の篤い要請に依り当社主典(當時の職名)に就任、二十一年五月より禰宜となり以來五十年三月退職まで通年四十一年間禰宜職として奉仕。平成五年一月三十日歸幽。享年八十四。

寺澤忠昌禰宜



明治四十年四月十五日新潟県高田市にて出生。昭和九年國學院大學卒業。同年元國幣

小社箱根神社奉職、十年元國幣小社津島神社出仕、十二年元國幣小社砥鹿神社主典、十九年四月当社主典に就き、六十二年三月まで会計主任を勤め同年禰宜職を退いた後も囑託として通年四十七年間の社務奉仕。平成二年十一月二十九日歸幽。享年八十一。

浅見太郎 権禰宜



明治四十年三月十七日飯能市南川にて出生。昭和五年三月当社出仕を拝命以來当社一

筋に五十年三月権禰宜を退いた後も囑託として通年五十七年間の社頭奉仕。昭和六十一年十月十三日歸幽。享年七十九。

この四人の方々には年齢差は殆ど無く、往時の神社界にあつて蘭田宮司は神職として大道を歩まれ、三氏は昭和二十年に当社在職中に召集を受け、木野氏は海軍、寺澤、浅見両氏は陸軍に応召されるも無事復員を致す事が出来ました。

奉賛会結成とその後の事績

戦後の混乱がまだ治まらない昭和二十一年の秋、先人は氏神氏子の絆をより強く結ばんと、「信心と祭祀行事」を紐帯とする奉賛会組織を結成しました。その趣意書に「(前略)郷土秩父の中心として祭祀奉仕の職に在る者と氏子及崇敬者と一体となり新日本建設に邁進すべき秋と痛感致すものに有之候(中略)過去に於ける我等の祖先が營々として培ひ来れる恭敬崇祖の醇風に或は奉仕鄭重を極めし祭祀の厳修に苟くも今後缺くる所あらんか、吾人何の顔以て神明に応へ父老に見えんやと思考するものに御座候(後略)」とあり

当時の関係者の篤い気概が偲ばれます。この奉賛会の協賛を受け、次々と今に残る事業を先輩職員は展開して参りました。

- 二十五年 夏祭河瀬神事渡御用の神輿新調企画。三〇四名の協賛者を得て二十六年の夏祭に初登場
- 二十八年 秩父宮殿下を顕彰する秩父宮会発会

- 三十年 御本殿外諸記録等保護・保存の為県文化財指定申請。認可
 - 三十三年 青少年健全育成を願ひ、剣・弓・柔道三道大会を創始、本年連続五十五回を重ねる。
 - 三十六年 節分追儺祭鬼遣い行事。
 - 三十七年 中町釜ノ上 若林氏より鬼面衣裳一式奉納有。
 - 三十七年 秩父屋台笠鉾、国指定有形文化財、申請認定。
 - 四十一年 九月二十六日夕刻の台風禍、銀杏の倒木に依り社殿損壞の被害大。所謂昭和の大改修工事。
 - 四十五年 御本殿遷座祭斎行、社頭面目一新。
 - 四十七年 参集殿竣工祭執行、境内景観整備。
 - 四十九年 地元町内毎の講社結成。年々登拜有。
 - 五十年 神楽記録保存事業、神楽面衣裳等全面新調改修。
 - 五十六年 御田植神事、記録保存事業。
 - 五十八年 祈願参拝者及結婚式混雑緩和の為儀式殿新設 等々
- 主なるものを記してみました。が、ご年配の方々のなかには直接にこれらの事柄に関わりをもたれて当時を懐しく思い出すが居られましたなら幸いです。昭和から平成に移りて既に二十五年の夏を迎えた今日、激動の昭和を乗り越えられた先人達の篤き床しい心根を受け継ぎ、平成の世に相応しい「絆」「繫」を弥更に重ねて、柞の杜の緑が益々深まることを願う次第です。

神宮の式年遷宮を言祝ぐ

宮司 藺田 稔

序 「日本を取り戻す」

皆さんとともに心待ちにしてきた伊勢の神宮の式年遷宮が、いよいよ来たる十月の二日と五日に定められて両日の午後八時からのご遷御を待つばかりとなりました。

本年は、折よく去る五月には出雲大社の六十年に一度の大遷宮も盛大に執行され、つい先月には全国民が誇りとする富士山が古代以来の信仰史をもつて待望の世界文化遺産に認証されるなど、今回の式年遷宮を筆頭に世界に類のない日本の伝統文化が目白押しに復活しています。時あたかも、二度目の政権に復帰した安倍晋三総理大臣が「日本を取り戻す」と決意表明して永らく混迷してきた日本社会を立て直す気運を高めておられるのも偶然ではないでしょう。

一 「国家の重儀」

昔から「国家の重儀」と称えられて実に一千三百年余りにわたって二十年毎に繰り返され、今回で六十二回目の遷宮となるわけですが、これも去る平成十七年五月二日の山口祭から開始され、以来あしかけ九年にわたる三十ほ



石持ち行事

どの遷宮諸祭をもつて完遂するという一連の大事業なのです。しかも最も大切な神事は、十月二日の内宮と五日の外宮といずれも浄間に齋行される御祭神の遷御の儀も然ることながら、実はその翌朝の午前六時に執行される由貴大御饌祭と、続く午前十時に執行される奉幣の儀を重んじなければなりません。「由貴」とは、最も尊いという意味で、真新しいご正殿に遷られた御祭神に初めての清浄なお食事をたてまつる神嘗祭なのですが、毎年恒例の同祭とは違つて二十年に一度の特別な祭事なので「大神嘗」とも表されています。

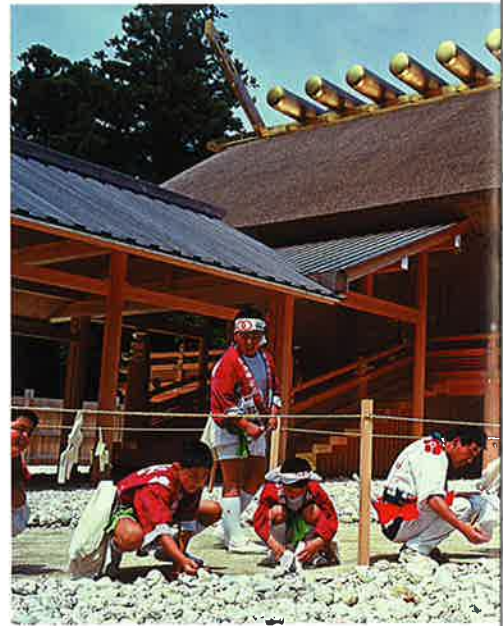
二 「大神嘗」と「大新嘗」

世界に類のない日本文化を象徴する国柄を証しとする核心的な神事に、この伊勢の「大神嘗」と天皇ご即位の「大新嘗」、つまり新天皇即位の大礼「踐祚大嘗祭」があります。

記憶に新しい今上陛下の即位大礼として厳肅に夜を徹して齋行された平成二年秋の大嘗祭は、実は皇居に新設した大嘗宮での親しく新帝による最初の神々との饗宴ですが、これも毎年の晩秋に行なわれる天皇親祭の新嘗を即位最初に最大規模に再現して、平成という新しい御代とするわけですから、一世一度の「大新嘗」とも見なすことができます。

結び 日本くにの「国柄」 を示す大儀

わが国の神話的な先史時代を含めると今年（皇紀二千六百七十三年）に当たるわけですが、この大和王権以来の「国柄」は、その後のめまぐるしい時代の変化にもかかわらず連続と現代にまで受け継がれています。その象徴的な神事が、二十一年に一度の神宮式年遷宮、つまり「大神嘗」であり、一世一元の御世代みよわりを再現する踐祚大嘗祭、つまり「大新嘗」



御正殿 お白

なのです。いずれも毎年としごとの稲の新穀をもつて神々に収穫を感謝する伊勢の神嘗かみと天皇親祭にじなみの新嘗にじなみとを、神宮では二十年に一度は全てを新調する遷宮の下に再現し、皇居では新設の大嘗宮で歴代新帝の御世代みよわりを再現する。

日本の「国柄」は、稲の命いのちが年毎に新生するように国家の盛衰をつらぬいて「常若とこわか」の精神、すなわち世毎に人心の若返りを祈り続けることにあるのです。

【表紙絵解説】



この度の表紙絵画は、平成二十四年度第42回武甲山図画展において、秩父市長賞を受賞した秩父第二中学校三年、笠原大輝君（現在秩父農工科学高校一年）の作品を掲載させて頂きました。

横瀬の寺坂にある棚田とその後のちに聳える武甲山の緑が鮮やかに、繊細なタッチで描かれており、私たちが大切に残していかなければならない風景であります。

現在、秩父農工でサッカー部に所属している笠原君。そのお名前なまえは当社にて命名されたとの由。またお住まいは屋台町上町にあり、夏祭り・冬祭りには、ご家族そろってご参加頂いております。今後益々のご活躍を期待しております。

【表紙解説】

たふとさに みなおしあひぬ 御遷宮
みごとに新装なつた御正殿の尊い威厳に心打たれてお互い押し合うように参拝するさまを詠んでいる。

旅の俳聖、松尾芭蕉が、元禄二年（西暦一六八九）『奥の細道』紀行を済ませた後の九月十三日に生涯六度目となる、最後の参宮を果した折りに吟じた句作。

この句には、「内宮はことおさまりて下宮のせんぐうおがみ侍りて」という簡潔な文章を前置きしている。「下宮」とは外宮、豊受大神宮のことである。元禄二年の式年遷宮は第四十六回として執行されたが、その三年前の貞享四年に百十三代の東山天皇が近世最初の大嘗祭を復活されたり、その四十年ほど前の慶安三年から伊勢へのお蔭参りが本格化するなど、元禄文化が開花するなかで神宮の遷宮事業も活気づいた記録があり、内宮に次いで執行された外宮の遷宮にも多数の参拝者が群集していた様子ようすがうかがわれる。



退任 挨拶

前秩父神社奉賛会長 井上 久

本年三月三十一日をもって、永年お世話になりました秩父神社奉賛会長を退任致しました。顧みますと、平成二年四月に奉賛会長に就任以来、二十三年間務めさせて頂きましたが、その間十分な奉賛が出来なかつた事を深くお詫び申し上げます。

折々に蘭田宮司様よりお聞き致します秩父神社の将来像、殊に秩父宮内殿下の慰霊顕彰に関する事業や、武甲山再生に関する取り組み、更には秩父総社に相応しく周辺市街地と一体になったマチづくりなど、やり残した課題は数多くございますが、多くの皆様のご賛同を頂き、平成殿の建設をはじめとする御大典記念事業を完遂することが出来ましたこと、そして徳高神社様とのご神縁のもと柞祖霊社を建立することが出来たことは望外の喜びでございます。今後は一大総代として微力ながらご奉仕を続けて参りますが、新奉賛会長に對しましても、私同様のご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶に代えさせていただきます。



就任 挨拶

秩父神社奉賛会長 宮前 洋一

此の度、図らずも蘭田宮司様をはじめ大総代各位のご推挙を賜り、井上久先生の後任として、秩父神社奉賛会長の重責を担う事になりました。奇しくも、本年は第六十二回目となる神宮の式年遷宮の年に当たりますのも特別な感慨がございます。前任者に比べて、全ての面で遜色のあることは否めませんが、そのハンディキャップを少しでもカバーしていきたいものと念じている次第です。

私事ながら、この六月で満八十才となり、今後の活動期間は極めて限られたものとならざるを得ません。秩父神社の長い歴史の中ではほんの一瞬かもしれませんが、より深く秩父神社と係る機会が持てたご縁を大切に、神社のため、地域のため少しでもお役にたてる様に努めて参る所存です。秩父神社の諸行事を奉賛し、神威を高め、広く及ぼすという当会の目的に改めて思いをいたし、氏子・崇敬者の皆様方には一層のご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。

秩父宮会事業報告

権禰宜 新井 君美



会津若松市「御薬園」にて

秩父宮雅仁親王殿下が昭和二十八年一月四日に薨去あそばされてより六十年。その慰霊顕彰を目的として設立された本会も創立六十周年を迎え昨今の公益法人制度改正に伴い本年四月一日より一般社団法人へ移行し新たな一歩を踏み出すこととなりました。この機に、あらためて秩父宮家縁の福島県会津若松市を訪ねるべく去る五月二十七日、二十八日の日程で視察研修旅行を実施致しました。本年のNHK大河ドラマの舞台でもある会津若松は、人材育成の観点

からも秀でた地域であり、藤原正彦氏のベストセラー『国家の品格』にも取り上げられた会津藩の「什の掟」は、幼少期の教育の重要性と共に話題となりました。

戊申戦争以降、苦難の道を歩むこととなった会津藩でしたが、多くの逸材を輩出したことでも知られています。ドラマの主人公である山本八重は、新島襄の妻として同志社大学の建学に尽力し、白虎隊士の山川健次郎は後に東京帝国大学総長となり秩父宮妃殿下とも親交の深い人物でありました。

妃殿下は会津藩主 松平容保公の孫にあたるお方であり、一生涯、会津のことを御心に掛けていらしたと伺います。今回の旅行には、前市長の栗原稔様(本会顧問)、また現市長の久喜邦康様(本会副会長)にも同行頂き、室井照平会津若松市長様をはじめ、現地の皆様と親しく懇談を回ることが叶いました。今後一層、両地域の交流が盛んになることを期待しております。



当社に残る秩父宮妃殿下のご染筆による和歌を結びご紹介させていただきます。

移りゆく世にも変はらぬ人々の情け嬉しき若松の郷

梟だより



東照宮遷座奉告祭



平成二十三年秋の台風十号により、樹齢約四百年の大ケヤキが倒木。その被害は玉垣と石灯籠を破壊し、末社東照宮にも及びました。間もなく、社殿改修工事に取り掛かり、本年無事工事が終了し、五月十二日東照宮遷座奉告祭が斎行されました。

神楽師主任就任挨拶



秩父神社神楽主任 若林軍時
昭和四十六年の秋、「旧別所分校」で神楽の練習会に参加した事がきっかけで、神楽師の道に進み、今年で四十二年目を迎えました。今年四月より、神楽師主任という重責を任命され、五月十八・十九日に行われた「第一回平成秩父座公演」も無事に終えたことは皆様の絶大なご協力があったとのことと感謝申し上げます。

神楽師も高齢化の波が押し寄せ、これを機に若手の育成に力を注いでいく所存でおります。毎月第二水曜日夕刻より神楽殿で練習会を行っております。男女問わず、興味のある方は連絡をお待ち申し上げております。

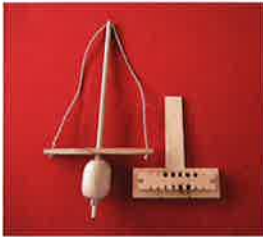
秩父市中村町在住 江野貴也



この度、秩父神社附属神楽の神楽師として御奉仕させて頂くご縁を賜り、大変有難くまた嬉しく思っております。秩父神社附属神楽を通し、様々な年中行事や四季折々の祭事に御一緒させて頂き、秩父神社の深い伝統と、神代からの長い歴史を改めて知り、私自身、身の引き締まる思いがいたします。この素晴らしい神楽を後世へと伝承していきたいという強い気持ちで一生懸命精進させて頂きたいと思っております。

奉納報告

この度、所沢市在住の池上美智代様より「轆轤火錐」を、ご奉納頂きました。この報告致します。



秩父神社妙見講

自平成二十五年 二月 至 平成二十五年 六月

- 二月十六日 拝城講
二月十七日 坂戸妙見講
二月十七日 小川直志講元外四十七名
四月九日 宮側講
四月十八日 鈴木建志講元外五十五名
四月十八日 豊田スエ講元外二百四十六名
五月十一日 中西貞夫講元外五百名
五月十九日 大野昭二講元外二百六名
五月十九日 柴岡祐雄講元外百三十五名
六月九日 高畑芳久講元外二百四名
六月十六日 根岸久雄講元外七十二名
六月十六日 原島光次講元外九十二名
六月十七日 高浜彰男講元外五十一名
六月二十二日 守屋英雄講元外百十三名
六月二十九日 深田章蔵講元外百六十四名

この度、小鹿野町在住の能面師倉林朗様より、節分追儺祭に使用される「鬼面二面」をご奉納頂きました。この報告致します。

六月三十日 下郷講
松澤一雄講元外四百五名
本年より近戸講 柴岡祐雄様が新に講元に就任されました。どうぞ宜しくお願い致します。

柞乃杜前結婚式報告

- 秩父市上宮地町 若尾雅之・尚実様
東京都調布市 北堀敬一朗・有理想様
秩父市中宮地町 岸野哲也・絵理子様
秩父市本町 長谷川正洋・花史里様
秩父市久那 新井健士・節子様
北海道上川郡 坂井幸宏・祝子様
秩父市宮側町 久下 智・菜奈様
桶川市上日出谷 新井 充・薫様
秩父市大野原 引間 雅士・千陽様
深谷市岡 斎藤 光・美咲様
長瀬町本野上 栗原玲太・さおり様
秩父市大野原 栗原 創・瑞河様
秩父市大野原 篠田保明・純子様
横瀬町横瀬 今井智志・由起様
東京都町田市 井上俊郎・成美様
さいたま市北区 鈴木 茂・歩様
和光市下新倉 近藤崇史・聡子様
秩父市上町 小澤信彦・ひとみ様
秩父市大野原 大澤 暁・麻紀様
横瀬町横瀬 長島辰弥・幸乃様
秩父市上吉田 坂本和久・有紀子様
未永く幸せな家庭をお築き戴きますようお祈り致します。

職員辞令

権 権宜網野直久 神職身分二級昇級
中川緋奈香 巫女見習を命ず
(四月一日付)
巫 女内田結香 願いにより職を免ず
(四月三十日付)

◆ 東日本大震災の追悼と鎮魂
並びに復興合同祈願式



三月二十一日、岩手県山田町に鎮座する山田八幡宮に於いて、世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会が主催する「東日本大震災の追悼と鎮魂並びに復興合同祈願式」が行われました。

祈願式では岩手県神社庁宮古下閉伊郡支部また地元神道青年会が協力し、当社の園田宮司が斎主を務め厳粛に執行されました。

式典にはWCRPの役員や地元宗教者約一五〇名が参列し、神社本庁を始め各教団の代表が玉串拝礼をした後、参列者全員で海の方角に向かい一分間の黙祷を捧げました。

震災で犠牲になられた方々を悼み、被災地の早期復興に祈りを込めて宗旨宗派をこえた祈願式となりました。

◆ バチ焼納祭と

屋台囃子上達祈願祭

五月二日午後四時よりバチ供養



焼納祭を翌三日午後四時より屋台囃子上達祈願祭を執り行いました。バチ供養焼納祭は、神職が忌火を熾し、本殿大前に設けた祭場において、永年使用したバチを感謝の気持ちを含めて焼納致しました。

また、屋台囃子上達祈願祭では、門前の番場通りに於いて行われた二十連太鼓の演奏の後、演奏者たちが本殿に参拝し、更なる演奏上達を祈願致しました。祈願の後、本殿大前に於いて秩父屋台囃子が奉納されました。両日とも、祭関係者・屋台囃子



演奏者をはじめとして、多くの方々の御参列を賜りました。秩父が誇る屋台囃子の更なる発展と、演奏者の皆さまの上達をお祈り申し上げます。

◆ 新人紹介



巫女見習 中川 緋奈香

平成7年2月24日生。秩父郡小鹿野町出身 秩父農工科学高校卒業。趣味 音楽鑑賞

この四月より巫女見習いとして奉職させていただきました。私は、秩父神社でお宮参り・七五三の節目のお祝い事や秩父夜祭など色々な行事で参拝に来る事が数多くありました。豊かな自然に恵まれた格式高い伝統のある秩父神社で御奉仕させて頂いていただける事は大変ありがたく思っております。

またまた未熟者ではありますが、諸先輩方の親切な御指導のもと日々のお務めに慣れていきたいと思っております。参拝・祈願など様々な思いで訪れる方々や皆様のお役に立てるよう努力して参りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

編集後記

■ここに社報柞乃杜第47号川瀬夏祭号をお届け致します。

■平成二十五年五月、出雲大社において六十年ぶりの平成の大遷宮。また日本武尊の神話に登場する三種の神器「草薙神劍」を御神体とする熱田神宮の御鎮座千九百年祭。そして、この秋十月に斎行される神宮の第六十二回式年遷宮。今年はまだに記念奉祝の年を迎えています。

■当社の拝殿正面に掲げる「知知夫神社」の扁額。この「知知夫」の表記は和銅六年（七二三）に所謂「好字二字」の令により現在の「秩父」に改められたと伝わります。今年で千三百年の年を迎えました。

■悠久の時を越え今に伝わる文化。日常の忙しさに追われる現代社会の私たちも、この記念すべき時を機に今一度日本人としての文化を再認識してみても如何でしょうか。きつと新しい発見に出会えることと思えます。

※本報の用紙は再生マツト紙を使用しています



平成二十五年（二〇一三）七月二〇日
編集 秩父神社社務所
発行 秩父神社社務所
〒366-0003 埼玉県秩父市番場町一三三
TEL 〇四九四 二二一〇二六二
FAX 〇四九四 二四一五五九六
印刷所 有限会社 拓文社印刷所
〒366-0003 秩父市東町二七七八